ほんちゃん

スギヤマカナヨ・さく

ぼく、ほんちゃん。
ほんのくにに　すんでいる、ほんのこどもだよ。
よろしくね。

あさ、おきたら、まずは　ぱらぱらたいそう。

がっこうのじゅぎょうでは、
だいじなことを　いっぱい
べんきょうする。

それから、しゅぎょう。
ほんが　あつまっているところに　でかけていって、
いろんなおはなしを、きかせてもらうんだ。

どんなほんに　なるか
きまったら、なかみを　しっかり
ととのえて、いいふくに　きがえて、
ほんのくにを　たびだつんだよ。

ぼくは、これまで、としょかんと、
ほんやさんと、ふるほんやさんで
しゅぎょうしたんだ。
でも、まだ、しょうらい、どんなほんに　なるか、
きめていない。
おかあさんは、「りっぱなずかんに　なりなさい」って
いうんだけど。

ぼくは、かっこいいほんに　なりたいんだよね。
スイッチとか　リモコンとかついてて、
おとが　なったり、がめんが　かわったりする　ほん！
すごいでしょ？　きっと、みんな　ほしがって、
ずっと　だいじにしてくれるよ。

おかあさんに　そういったら、
「それじゃあ、まるで　テレビでしょ。
おにいちゃんたちの　ほんだなへいって
おはなしを　きいてらっしゃい！」
って　しかられた。

ぼくは、おにいちゃんたちのところへ　しゅぎょうに　いくことにした。
おにいちゃんたちは、りっぱなずかんに　なって、
ほんがすきなこの　ほんだなに　すんでいるんだ。

「わたしは、あまり　ひらいてもらえないけど、
このしおりを　みて。

このいえの　ちいさいおじょうさんが、
はじめて　おかあさんに　ぷれぜんとした
おはななの。
あのときの、おふたりの
にこにこしたかおを、おもいだすわ」

うへえ、ぼくは、ちいさいこに　さわられるのは　いやだな。
よごされるし、やぶかれたら　いたいもの。

「あら、ほんちゃん、わたしは　あかちゃんのえほんだけど、
しゃぶられたあとも、かみちぎられた　ぶぶんも　じまんなの。
あかちゃんが、わたしを　きにいってくれた　しるしですもの。
ママさんは、おでかけに　かならず　わたしを　つれていくのよ」

「わしのような　じてんは、めったに　つれだされることは　ないな。
でも、しりたいことがあると、わしを　たよりにしてくれる。
おやくに　たてたときは、
つくづく、じてんで　よかったと　おもうのじゃ。
だから　ほこりを　かぶったって、
いつも　むねをはって　たっているのさ」

「ぼくも　いまじゃ、ほこりだらけだけど、

おじいちゃんと、そのむすこさんと、
そのまた　むすこさんにも
よまれてきたんだ。

きらきらした　めは、さんにんとも　よく　にていたよ。
ぼくは　えが　すくないから、
みんな　あたまのなかで、ぼうけんしていたなあ。

そんなふうに　そうぞうするって、おもしろそうじゃないかい？」

ぼくは……、ふつうのほんじゃ　いやなんだ。
だって、いつか　あいて、すてられたり、
ふるほにゃさんに　つれていかれるかもしれないもの。
やっぱり、おとがあでたり、えが　うごいたりするほうが
いいと　おもうんだけど……。

「ほんちゃんや、わしらは　ずいぶん　ふるくなった。
ちかいうちに、ふるほんやに　いくかもしれん。
しょうがっこうや、びょういんに
きふされるかも　わからんなあ。
なになに、かなしむことでは　ないんじゃよ。
そこでは、またあたらしい　であいが　まっているんじゃから」

ぼくは、いろいろ、かんがえた。
どんな　ほんに　なりたいのか。
どんな　ほんなら　ずっと
だいじにしてもらえるのか。

となりのへやから　このいえのおとなと　こどもの
わらいごえが　きこえてきた。
ぼくは　なんだかきもちよくなって、
おにいちゃんの　ほんだなで　ねてしまった。

つぎのひ、きゅっと　からだが　おされて　めがさめた。
ほんだなに　あたらしいほんが　やってきたんだ。
でも、そのほんは　ちっとも　あたらしくなかった。

「ほんちゃん、こんにちは。
わたしは、ここのおくさんに、
ふるほんやから　つれてこられたの。
『なつかしい』って、ゆうべ
わたしを　よんでくれてね、
ちいさいおじょうさんは
とっても　うれしそうに　きいていたわ」

「さっそく、ちいさいおじょうさんと
いいともだちに　なったようじゃのう」
ほんだなの　うえから　こえがした。

「ともだち？」ぼくは　ききかえした。
「そうさ。ともだちに　なれるところが　ほんの　いいところじゃ」
「おとが　でなくても？」
「よんだり、きいたり、ことばは　ひびくものじゃ」
「えが　うごかなくても？」
「ほんのせかいは　あたまのなかで　うごくものさ」

「ぼくも　だれかの　ともだちに　なれるかな？」
「きっと、なれるわ。だいじな　ともだちにね！」
あたらしくきた　ふるほんさんが、にっこり　わらって　いった。

いま、ぼくは　ほんやさんに　います。
そして、ちょっと　どきどきしています。